

を持っているか検査し、免疫がない場合にはワクチンを接種させる」(B型肝炎のみ、44.2%)であった(表3、図12、図14)。B型肝炎とC型肝炎の人で肝炎ウイルスを感染させないために意識していることで最も差があったのは、「献血はしない」(B型肝炎78.8%、C型肝炎90.4%、全体84.6%)であった(表3、図13)。

[II. 肝炎検診の受診状況]

B型/C型肝炎ウイルスの感染が明らかになった理由として多かったものは、「体調不良で受診した際に指摘されたから」(29.8%)、「会社の健康診断で指摘されたから」(18.6%)、「献血で指摘されたから」(18.3%)であった(表4、図15)。

ウイルス性肝炎の受診状況について、「定期的に受診していない」(36.9%)と回答した人が最も多く、次いで「3か月に1回程度受診している」(19.2%)、「年に1回程度受診している」(17.6%)、「1か月に1回程度受診している」(12.5%)、「半年に1回程度受診している」(10.9%)、「週に1回以上受診している」(2.9%)であった(表5、図16)。

定期的に受診していない理由としては、「医師に受診するように言われていないため」(39.1%)が最も多く、次いで「自覚症状がないため」(28.7%)、「完治したから」(21.7%)、「面倒であるため」(12.2%)、「仕事が忙しいため」(11.3%)、「経済的に余裕がないため」(10.4%)、であった

(表6、図17)。

[III. 治療状況]

ウイルス性肝炎の治療経験の有無について、全体で「あり」(55.1%)、「ない」(44.9%)であり、「あり」と回答したB型は46.2%(男性57.7%、女性34.6%)、C型は64.1%(男性73.1%、女性55.1%)であった(表7、図18～図20)。

これまでに経験した治療で最も多かったものは「インターフェロンによる治療」(59.3%)であり、次いで「肝臓を守る薬(強力ネオミノファーゲンCや、ウルソなど)を用いた治療」(45.9%)、「ウイルス量を下げる薬(リバビリン、ゼフィックス、ヘプセラ、バラクルード等の核酸アナログ製剤)を用いた治療」(45.3%)であった(表8、図21、図22)。

[IV. 就労への影響]

B型肝炎の労働障害指数は23.1、C型肝炎の労働障害指数は24.0、全体では23.6であった(表9、表12)。

また、発揮できた生産性の平均は、B型肝炎の人は79.4%、C型肝炎の人は71.3%、全体では75.4%であった(表10、表13)。ただし、生産性が0%であると回答した人が26人いたものの、ここ4週間の病気欠勤として5日以上を選択した回答者が3人しかいなかったため、問題の趣旨を理解した上で回答されたかについて疑問が残る。0%の回答を除いた場合の全体の平均は81.9%、B型肝炎の人は84.2%、

C型肝炎の人は79.5%であった(表11)。生産性が100%と回答した人は全体で35.9%で最も多く、次いで80%と回答した人が9.9%、90%と回答した人が9.6%であった(表13、図23)。

ウイルス性肝炎の症状や受診などにより、この4週間の病気欠勤について伺ったところ、0日(病気欠勤をしていない)と回答した人が最も多く、全体で90.4%(B型90.4%、C型90.4%)であった。次いで、1日と回答した人が全体で3.8%(B型3.8%、C型3.8%)、2日と回答した人が全体で3.2%(B型3.8%、C型2.6%)であった(表14、図24)。この4週間の早退日数は、0日と回答した人が最も多く、全体で95.2%(B型94.9%、C型95.5%)であった(表15、図25)。次いで、1日と回答した人が全体で2.6%(B型3.2%、C型1.9%)であった。この4週間の遅刻日数は、0日と回答した人が最も多く、全体で97.8%(B型99.4%、C型96.2%)であった(表16、図26)。次いで、1日と回答した人が全体で1.3%(B型0%、C型2.6%)であった。

職業性のストレスについても質問を行った。「他の人に感染させてしまうのではないかと不安である」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で30.1%であった(表17、図27)。「自分の職場でウイルス性肝炎について差別や偏見があると感じる」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で15.4%であった(表17、図28)。「仕事を選ぶ際に、肝炎ウイルスに感染していることで職種の範囲が狭まる」の設

問に対し、「思う」と回答した人は全体で24.4%であった(表17、図29)。

「肝炎ウイルスに感染しているため、就職(再就職、転職)がうまくいかない」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で15.1%であった(表17、図30)。「職場の健康診断によって、ウイルス性肝炎であることを職場の人に知られるかもしれないと不安である」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で21.1%であった(表17、図31)。「産業医などの健康管理担当者に相談した場合、ウイルス性肝炎であることを職場の人に知られるかもしれないと不安である」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で17.6%であった(表17、図32)。「ウイルス性肝炎であることを開示することによって、異動や配置換えをされるかもしれない」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で15.3%であった(表17、図33)。「治療により仕事を継続することに支障がある」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で23.8%であった(表17、図34)。

[V. 課題や要望]

課題や要望として多く挙げられていたのは、治療の際への配慮であった。特に「治療を安心してうけられるための休暇の取得」や「治療による副作用により体調不良への理解と配慮」が職場に求められていた。また、肝炎に対する正確な理解も求められており、正しい知識の啓発が望まれていた。

D. 考察

昨年度、今回アンケート調査と同じ20～69歳の肝炎でない人を対象に肝炎に関する知識を問うアンケートが行われた。今回の結果では、比較できるどの項目でもウイルス性肝炎と診断されたことがある人が診断されたことのない人を上回る高い結果が得られ、肝炎に関して知識を持っていることが明らかになった。例えば、肝炎でない人でも広く知られていた項目として、「一緒に仕事をしても感染しない」(76.7%)、「握手をしても感染しない」(76.7%)、「話をしても感染しない」(76.6%)があるが、同じ質問に対してウイルス性肝炎と診断されたことがある人で知っていたと回答した人はそれぞれ97.4%、97.8%、97.4%であった。また、比較的知られていない「B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と一緒に温泉などに入浴しても感染しない」(62.3%)、「B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と食器を共用しても感染しない」(60.7%)についても、ウイルス性肝炎と診断されたことがある人ではそれぞれ96.2%、92.3%と知っていたと回答した率が高かった。このことにより、ウイルス性肝炎と診断されたことがある人に対して基本的な知識は十分に伝達されていると考えられた。

ただし一方で、他の人に肝炎ウイルスを感染させないために意識していることとして、「外傷、皮膚炎、鼻血などはできるだけ自分で手当てし、手当てを受ける場合は血液や分泌物を

手当てをしている人につけない」(57.4%)、「性行為で感染することがあるので配偶者やパートナーが免疫を持っているか検査し、免疫がない場合にはワクチンを接種させる」(B型肝炎の人のみ、44.2%)ことが比較的低い結果として得られている。これは定期的に受診していない理由として、「完治したから」と回答した人が全体で25人いたように、知識がないということよりも、完治したため、人に感染させることをもう意識していないということであることが予想される。

B型/C型肝炎ウイルスの感染が明らかになった理由として多かったものは、体調不良で受診した際に指摘されたことから、体調不良など何らかの自覚症状が出てから肝炎ウイルスへの感染に気が付く人が多いということが明らかになった。自覚症状が出る前に肝炎ウイルスに感染していることがわかればより早く治療を開始することができるため、肝炎ウイルス検査を受けることの推進が重要であることが示唆された。

ウイルス性肝炎の受診状況について、定期的に受診していないと回答した人が最も多く、その理由として、医師に受診するように言われていないことや自覚症状がないことが多く挙げられた。このことから、定期的な受診の推進のためには医師からの説明が重要であり、特に自覚症状がない人の受診を促すためには医師が重要な役割を持っていることが示唆された。

ウイルス性肝炎の治療経験の有無

については、全体の約半数において治療経験がなかった。B型肝炎よりもC型肝炎の方が治療経験のあるとした人が少なく、全体で35.9%であった。特に男性は女性に比べて治療経験が少なく、B型肝炎では42.3%、C型肝炎では26.9%と少ない結果となった。このことから、肝炎であることを自覚しつつも治療を受けていない人がある程度いるという実態が明らかになった。また、家計を支えていることが多い男性が治療よりも就労を優先することにより治療を受けていないことが示唆された。

B型肝炎の労働障害指数(WIS)は23.1、C型肝炎のWISは24.0、全体では23.6であった。2007年発表の調査では、アレルギーのWISが21.3、背中や首の不調が23.8、抑うつが34.7であった。事業や職種によっても影響が異なるであろうが、肝炎であることの就労への影響は、抑うつよりも低く、アレルギーよりは高いということが示唆された。

肝炎患者の生産性としては、生産性が100%、つまり肝炎であることが生産性に全く影響しないと回答した人は全体で35.9%と最も多かった。次いで80%と回答した人が9.9%、90%と回答した人が9.6%であった。また、ウイルス性肝炎の症状や受診などによるこの4週間の病欠欠勤、早退、遅刻なども「ない」と回答した人が大部分であった。現在の症状や治療状況により生産性への影響が異なると思われるが、生産性や勤務状況に重大な影

響を与えているわけではないことが示唆された。

職業性のストレスについての質問において、最も「思う」という回答が多かったのは「仕事を選ぶ際に、肝炎ウイルスに感染していることで職種範囲が狭まる」(24.4%)という質問であった。東京肝臓友の会へのヒアリングにおいても、医療従事者や介護士、肉体労働の人は就労が大変であるということであり、就労が困難な職業がある可能性がある。要因としては、肉体的な負担のほかに、人にうつしてしまうのではないかとという本人および周りの不安ということが考えられる。また、「治療により仕事を継続することに支障がある」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で23.8%であり、約半数が治療を受けていないことの要因として就労への支障ということが示唆された。「職場の健康診断によって、ウイルス性肝炎であることを職場の人に知られるかもしれないと不安である」の設問に対し、「思う」と回答した人は全体で21.1%であり、職場での健康診断の結果の取り扱いについて不安を持つ人がいることが明らかになった。

また、課題や要望として肝炎に対する正確な理解も求められていた。休暇の取得や体調不良への理解も、肝炎に関して正確な知識があれば、より進むであろう。

E. 結論

ウイルス性肝炎の治療経験の有無

については、全体の約半数が治療経験がなかった。検査を行ったあとに十分にフォローができる体制がさらに求められる。

肝炎患者自身は肝炎に対する知識が高く、周囲へ感染させないための意識も比較的高い結果となった。

職場で偏見を感じる肝炎患者は全体の15.4%であった。肝炎そのものや、肝炎の治療のための欠勤や治療の副作用等による体調不良に対する職場での理解が求められており、理解がある職場でないと治療を受けにくい状況であることが考えられる。肝炎患者の治療の推進のためには、こういった職場での理解が進むような啓発が求められるとともに、医師が治療や受診について肝炎患者に丁寧に説明を行うことも重要である。

F. 研究発表

1. 太田寛, 和田耕治, 佐々木七恵, 相澤好治. 働く世代におけるウイルス性肝炎に関する調査(その1: 肝炎の基本的知識と感染者に関する認識). 第85回日本産業衛生学会, 名古屋. 日本産業衛生学雑誌54臨時増刊号p455, 2012

平成24年6月1日

2. 佐々木七恵, 和田耕治, 太田寛, 相澤好治. 働く世代におけるウイルス性肝炎に関する調査(その2: 検査の現状とあり方). 第85回日本産業衛生学会, 名古屋. 日本産業衛生学雑誌54臨時増刊号p456, 2012 平成24年6月1日

① 集計結果（単純集計）

表 1 回答者の属性

	選択肢	B型肝炎						C型肝炎						合計					
		男		女		合計		男		女		合計		男		女		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1 職業	1 公務員	10	12.8%	2	2.6%	12	7.7%	5	6.4%	1	1.3%	6	3.8%	15	9.6%	3	1.9%	18	5.8%
	2 経営者・役員	2	2.6%	2	2.6%	4	2.6%	5	6.4%	0	0.0%	5	3.2%	7	4.5%	2	1.3%	9	2.9%
	3 会社員(事務系)	17	21.8%	24	30.8%	41	26.3%	17	21.8%	20	25.6%	37	23.7%	34	21.8%	44	28.2%	78	25.0%
	4 会社員(技術系)	15	19.2%	2	2.6%	17	10.9%	10	12.8%	4	5.1%	14	9.0%	25	16.0%	6	3.8%	31	9.9%
	5 会社員(その他)	17	21.8%	10	12.8%	27	17.3%	10	12.8%	8	10.3%	18	11.5%	27	17.3%	18	11.5%	45	14.4%
	6 自営業	11	14.1%	3	3.8%	14	9.0%	15	19.2%	12	15.4%	27	17.3%	26	16.7%	15	9.6%	41	13.1%
	7 自由業	2	2.6%	4	5.1%	6	3.8%	5	6.4%	0	0.0%	5	3.2%	7	4.5%	4	2.6%	11	3.5%
	8 専業主婦(主夫)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	9 パート・アルバイト	2	2.6%	30	38.5%	32	20.5%	5	6.4%	28	35.9%	33	21.2%	7	4.5%	58	37.2%	65	20.8%
	10 学生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	11 その他	2	2.6%	1	1.3%	3	1.9%	6	7.7%	5	6.4%	11	7.1%	8	5.1%	6	3.8%	14	4.5%
	12 無職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 年齢	1 20才～24才	0	0.0%	1	1.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
	2 25才～29才	1	1.3%	2	2.6%	3	1.9%	1	1.3%	3	3.8%	4	2.6%	2	1.3%	5	3.2%	7	2.2%
	3 30才～34才	4	5.1%	3	3.8%	7	4.5%	3	3.8%	5	6.4%	8	5.1%	7	4.5%	8	5.1%	15	4.8%
	4 35才～39才	7	9.0%	21	26.9%	28	17.9%	3	3.8%	7	9.0%	10	6.4%	10	6.4%	28	17.9%	38	12.2%
	5 40才～44才	5	6.4%	11	14.1%	16	10.3%	5	6.4%	15	19.2%	20	12.8%	10	6.4%	26	16.7%	36	11.5%
	6 45才～49才	16	20.5%	8	10.3%	24	15.4%	9	11.5%	16	20.5%	25	16.0%	25	16.0%	24	15.4%	49	15.7%
	7 50才～54才	17	21.8%	16	20.5%	33	21.2%	20	25.6%	17	21.8%	37	23.7%	37	23.7%	33	21.2%	70	22.4%
	8 55才～59才	15	19.2%	5	6.4%	20	12.8%	13	16.7%	9	11.5%	22	14.1%	28	17.9%	14	9.0%	42	13.5%
	9 60才以上	13	16.7%	11	14.1%	24	15.4%	24	30.8%	6	7.7%	30	19.2%	37	23.7%	17	10.9%	54	17.3%
3 地域	1 北海道	2	2.6%	6	7.7%	8	5.1%	5	6.4%	5	6.4%	10	6.4%	7	4.5%	11	7.1%	18	5.8%
	2 東北地方	8	10.3%	1	1.3%	9	5.8%	2	2.6%	7	9.0%	9	5.8%	10	6.4%	8	5.1%	18	5.8%
	3 関東地方	29	37.2%	25	32.1%	54	34.6%	32	41.0%	26	33.3%	58	37.2%	61	39.1%	51	32.7%	112	35.9%
	4 中部地方	12	15.4%	6	7.7%	18	11.5%	9	11.5%	15	19.2%	24	15.4%	21	13.5%	21	13.5%	42	13.5%
	5 近畿地方	12	15.4%	21	26.9%	33	21.2%	21	26.9%	13	16.7%	34	21.8%	33	21.2%	34	21.8%	67	21.5%
	6 中国地方	7	9.0%	8	10.3%	15	9.6%	6	7.7%	4	5.1%	10	6.4%	13	8.3%	12	7.7%	25	8.0%
	7 四国地方	0	0.0%	4	5.1%	4	2.6%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.6%	4	2.6%	5	1.6%
	8 九州地方	8	10.3%	7	9.0%	15	9.6%	2	2.6%	8	10.3%	10	6.4%	10	6.4%	15	9.6%	25	8.0%

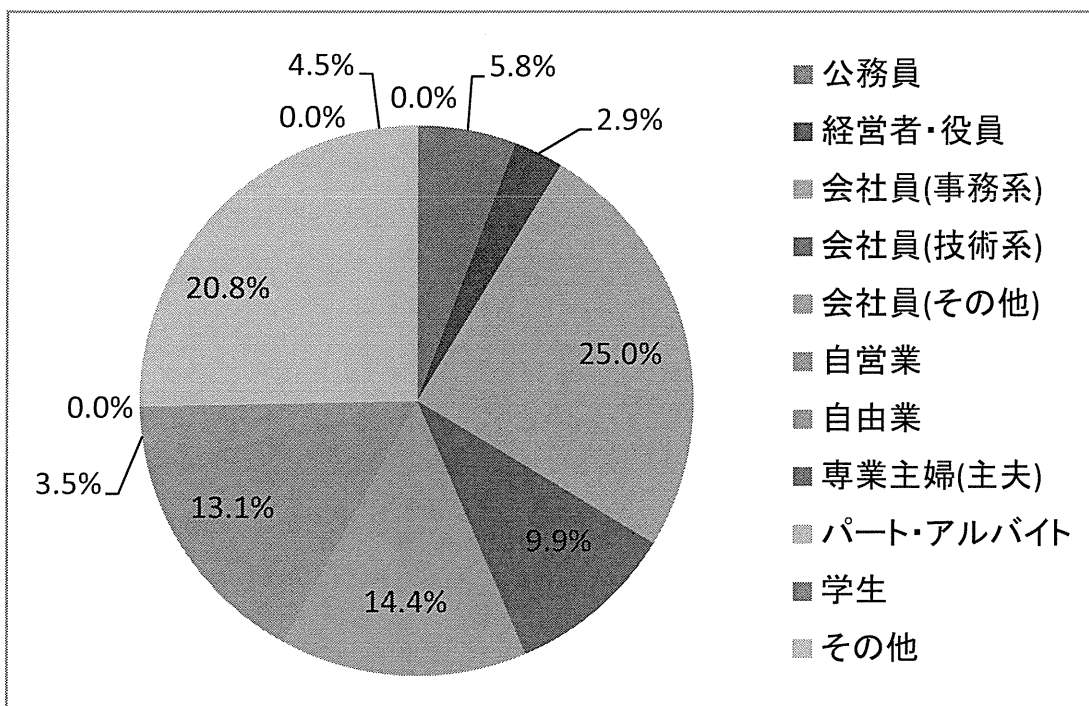


図 1 回答者の属性 (職業)

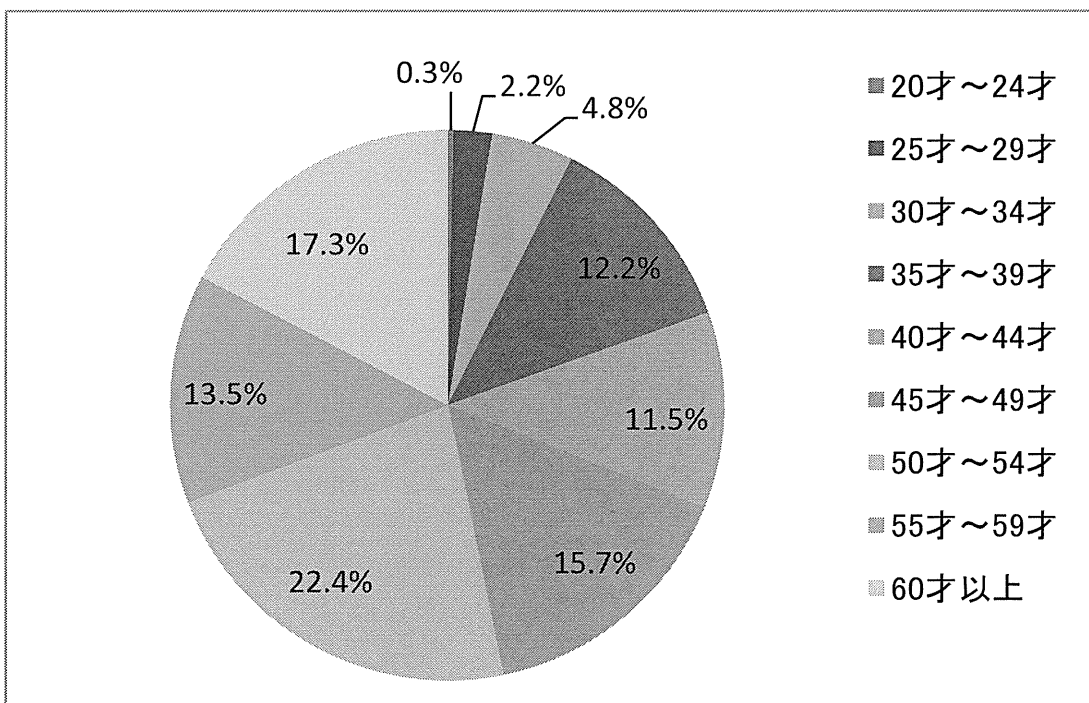


図 2 回答者の属性 (年齢)

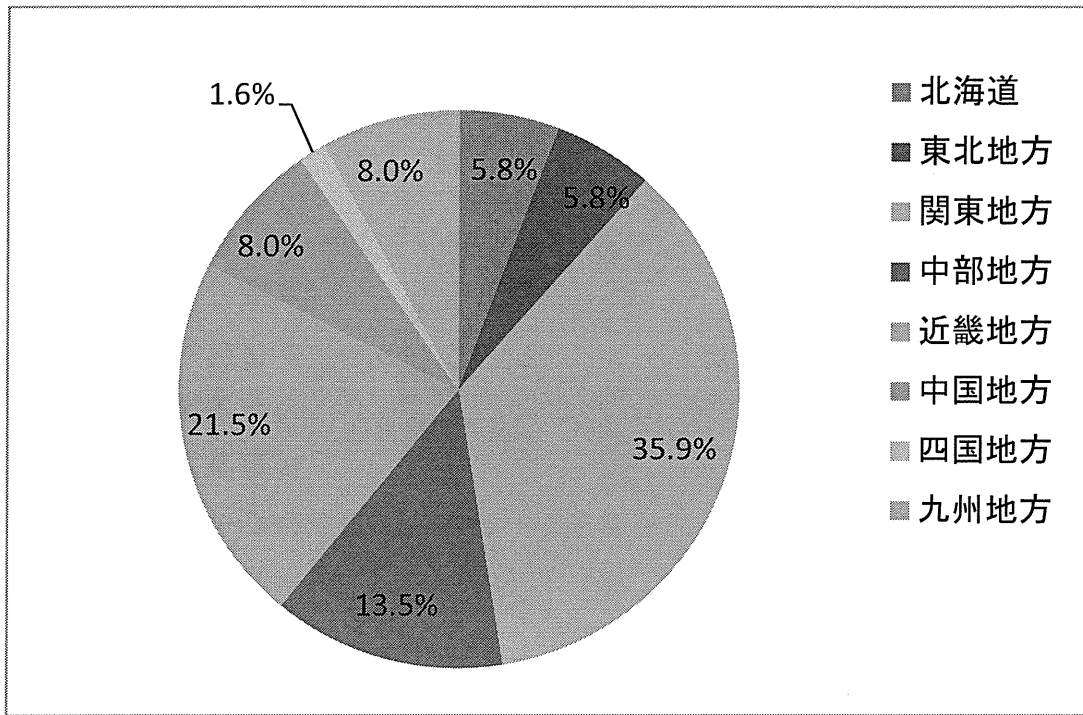


図 3 回答者の属性 (地域)

表 2 B型/C型肝炎に関する知識の有無

		B型肝炎								C型肝炎						合計					
		男		女		合計		男		女		合計		男		女		合計			
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
1	B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と握手をしても感染しない	選択肢																			
		1	知っていた	76	97.4%	75	96.2%	151	96.8%	77	98.7%	77	98.7%	154	98.7%	153	98.1%	152	97.4%	305	97.8%
		2	知らなかった	2	2.6%	3	3.8%	5	3.2%	1	1.3%	1	1.3%	2	1.3%	3	1.9%	4	2.6%	7	2.2%
2	B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と話をしても感染しない	1	知っていた	75	96.2%	75	96.2%	150	96.2%	77	98.7%	77	98.7%	154	98.7%	152	97.4%	152	97.4%	304	97.4%
		2	知らなかった	3	3.8%	3	3.8%	6	3.8%	1	1.3%	1	1.3%	2	1.3%	4	2.6%	4	2.6%	8	2.6%
3	B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と一緒に仕事をしても感染しない	1	知っていた	75	96.2%	75	96.2%	150	96.2%	77	98.7%	77	98.7%	154	98.7%	152	97.4%	152	97.4%	304	97.4%
		2	知らなかった	3	3.8%	3	3.8%	6	3.8%	1	1.3%	1	1.3%	2	1.3%	4	2.6%	4	2.6%	8	2.6%
4	B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と食器を共用しても感染しない	1	知っていた	67	85.9%	71	91.0%	138	88.5%	74	94.9%	76	97.4%	150	96.2%	141	90.4%	147	94.2%	288	92.3%
		2	知らなかった	11	14.1%	7	9.0%	18	11.5%	4	5.1%	2	2.6%	6	3.8%	15	9.6%	9	5.8%	24	7.7%
5	B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と一緒に温泉などに入浴しても感染しない	1	知っていた	73	93.6%	73	93.6%	146	93.6%	77	98.7%	77	98.7%	154	98.7%	150	96.2%	150	96.2%	300	96.2%
		2	知らなかった	5	6.4%	5	6.4%	10	6.4%	1	1.3%	1	1.3%	2	1.3%	6	3.8%	6	3.8%	12	3.8%
6	肝臓は沈黙の臓器とも呼ばれ、B型/C型肝炎ウイルスの持続感染により、自覚症状がなくても慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌に進行している事がある	1	知っていた	74	94.9%	72	92.3%	146	93.6%	73	93.6%	75	96.2%	148	94.9%	147	94.2%	147	94.2%	294	94.2%
		2	知らなかった	4	5.1%	6	7.7%	10	6.4%	5	6.4%	3	3.8%	8	5.1%	9	5.8%	9	5.8%	18	5.8%

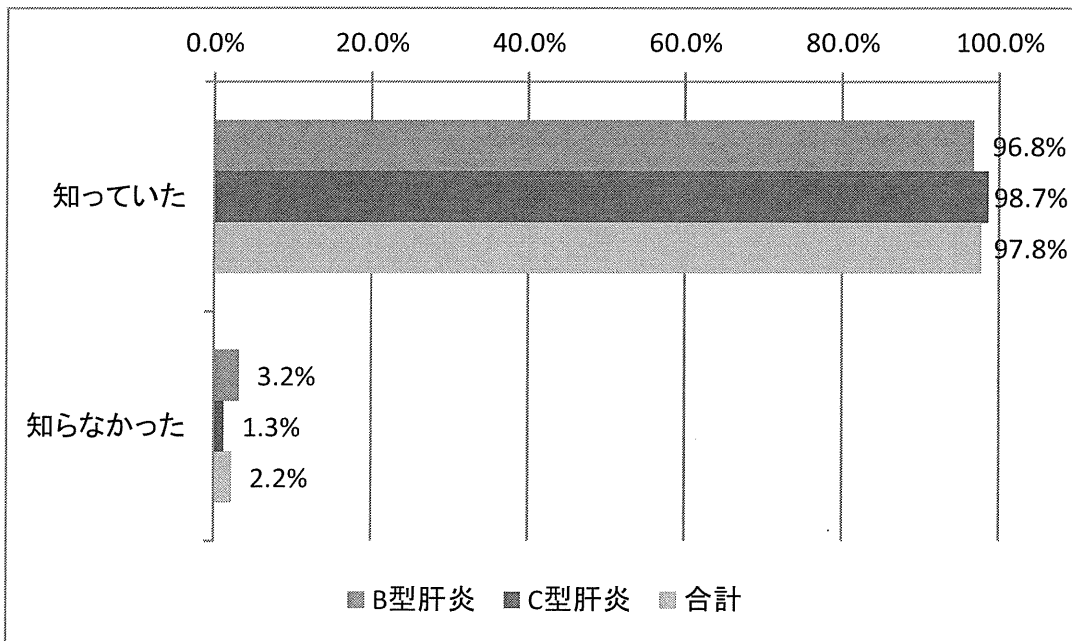


図 4 「B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と握手をしても感染しない」

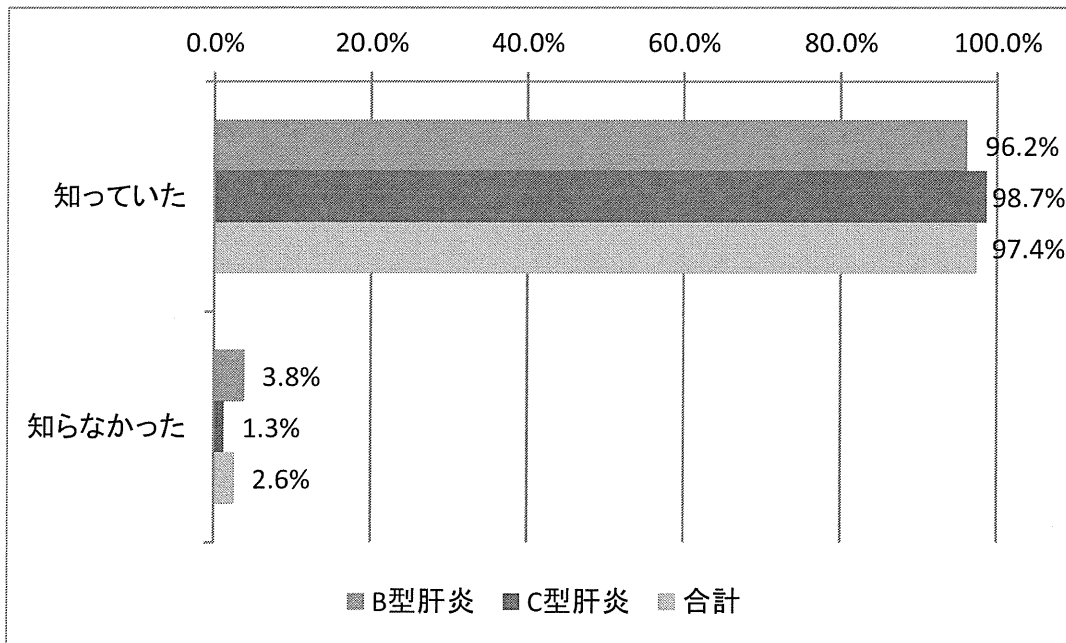


図 5 「B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と話をしても感染しない」

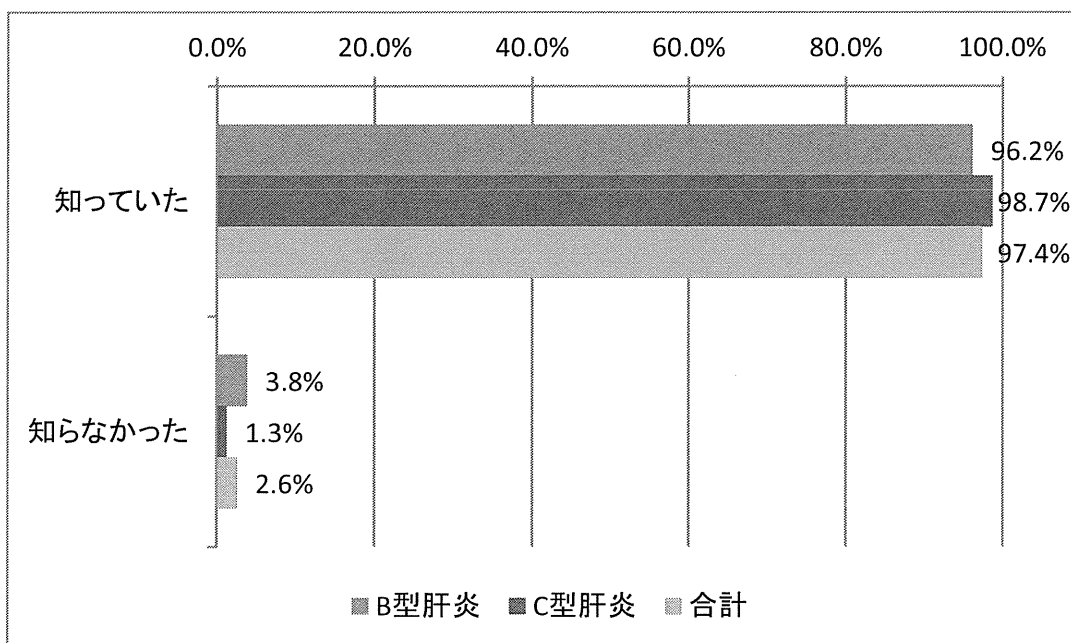


図 6「B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と一緒に仕事をしても感染しない」

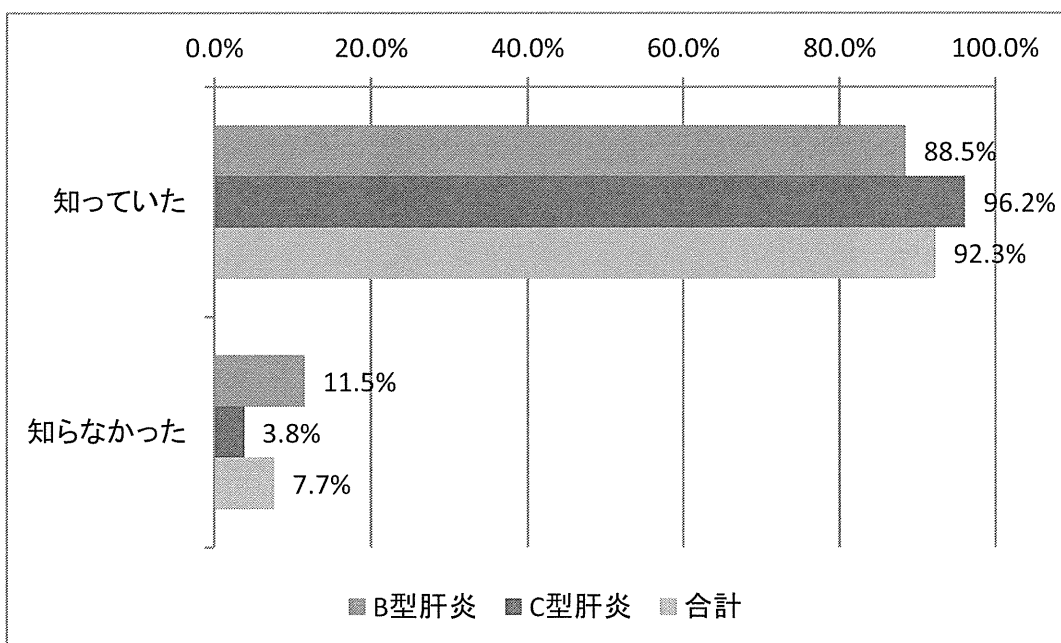


図 7「B型/C型肝炎ウイルスは、感染している人と食器を共用しても感染しない」

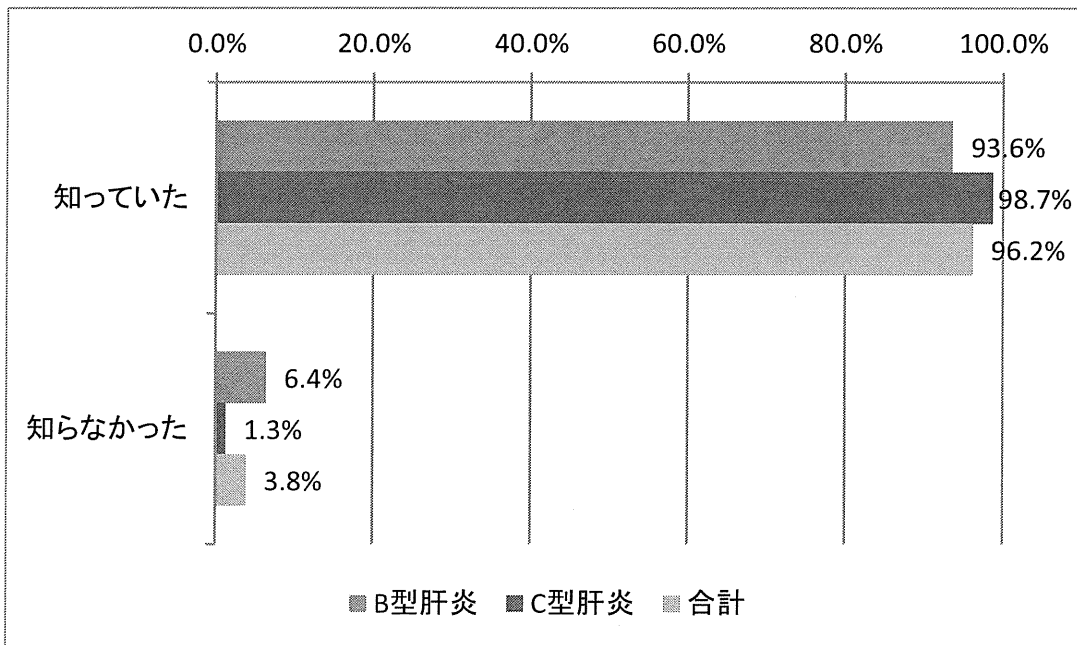


図 8 「B 型/C 型肝炎ウイルスは、感染している人と一緒に温泉などに入浴しても感染しない」

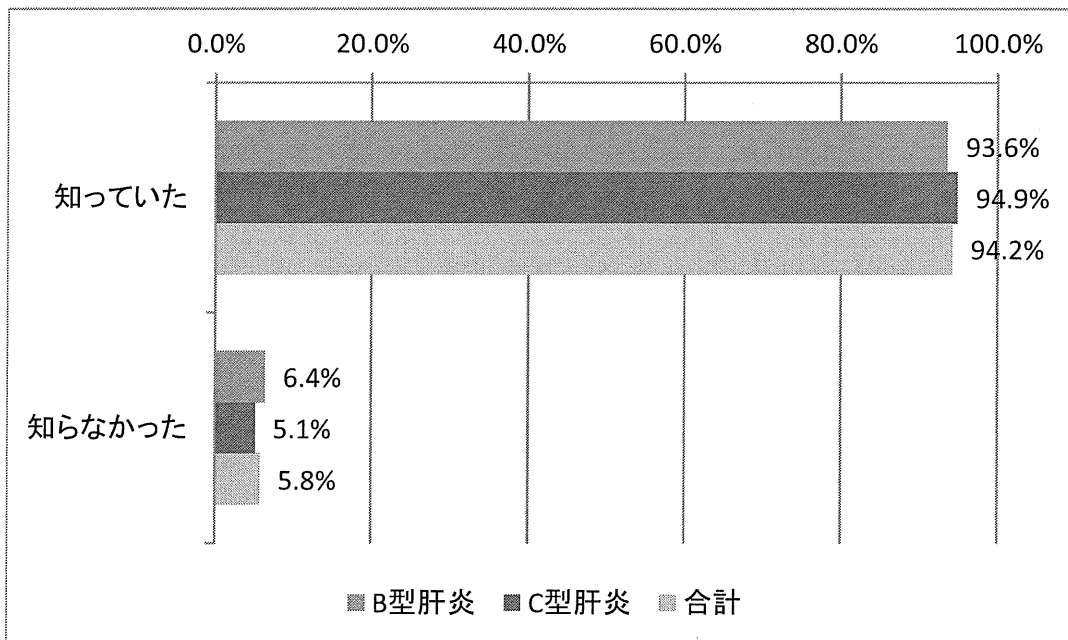


図 9 「肝臓は沈黙の臓器とも呼ばれ、B 型/C 型肝炎ウイルスの持続感染により、自覚症状がなくとも慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌に進行している事がある」

表 3 他人に肝炎ウイルスを感染させないために意識していること

	選択肢	B型肝炎						C型肝炎						合計					
		男		女		合計		男		女		合計		男		女		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1 肝炎ウイルスは主として血液を介して感染するため、血液が付着する可能性のあるカミソリや歯ブラシなどの共用は避ける	1 意識している	47	60.3%	54	69.2%	101	64.7%	47	60.3%	57	73.1%	104	66.7%	94	60.3%	111	71.2%	205	65.7%
	2 まあ意識している	19	24.4%	15	19.2%	34	21.8%	18	23.1%	15	19.2%	33	21.2%	37	23.7%	30	19.2%	67	21.5%
	3 あまり意識していない	6	7.7%	6	7.7%	12	7.7%	9	11.5%	3	3.8%	12	7.7%	15	9.6%	9	5.8%	24	7.7%
	4 意識していない	5	6.4%	3	3.8%	8	5.1%	3	3.8%	3	3.8%	6	3.8%	8	5.1%	6	3.8%	14	4.5%
	5 わからない	1	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	2	1.3%	0	0.0%	2	0.6%
2 肝炎ウイルスは主として血液を介して感染するため、出血した際には他人が触れないように、処理を徹底する	1 意識している	43	55.1%	46	59.0%	89	57.1%	40	51.3%	55	70.5%	95	60.9%	83	53.2%	101	64.7%	184	59.0%
	2 まあ意識している	17	21.8%	18	23.1%	35	22.4%	22	28.2%	15	19.2%	37	23.7%	39	25.0%	33	21.2%	72	23.1%
	3 あまり意識していない	11	14.1%	10	12.8%	21	13.5%	12	15.4%	6	7.7%	18	11.5%	23	14.7%	16	10.3%	39	12.5%
	4 意識していない	5	6.4%	4	5.1%	9	5.8%	3	3.8%	2	2.6%	5	3.2%	8	5.1%	6	3.8%	14	4.5%
	5 わからない	2	2.6%	0	0.0%	2	1.3%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	3	1.9%	0	0.0%	3	1.0%
3 外傷、皮膚炎、鼻血などではできるだけ自分で手当てし、手当を受ける場合は血液や分泌物を手当をしている人につけない	1 意識している	42	53.8%	44	56.4%	86	55.1%	41	52.6%	52	66.7%	93	59.6%	83	53.2%	96	61.5%	179	57.4%
	2 まあ意識している	18	23.1%	22	28.2%	40	25.6%	23	29.5%	17	21.8%	40	25.6%	41	26.3%	39	25.0%	80	25.6%
	3 あまり意識していない	11	14.1%	9	11.5%	20	12.8%	11	14.1%	6	7.7%	17	10.9%	22	14.1%	15	9.6%	37	11.9%
	4 意識していない	5	6.4%	3	3.8%	8	5.1%	3	3.8%	3	3.8%	6	3.8%	8	5.1%	6	3.8%	14	4.5%
	5 わからない	2	2.6%	0	0.0%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.3%	0	0.0%	2	0.6%
4 献血はしない	1 意識している	57	73.1%	66	84.6%	123	78.8%	67	85.9%	74	94.9%	141	90.4%	124	79.5%	140	89.7%	264	84.6%
	2 まあ意識している	10	12.8%	4	5.1%	14	9.0%	7	9.0%	4	5.1%	11	7.1%	17	10.9%	8	5.1%	25	8.0%
	3 あまり意識していない	6	7.7%	4	5.1%	10	6.4%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	7	4.5%	4	2.6%	11	3.5%
	4 意識していない	3	3.8%	3	3.8%	6	3.8%	3	3.8%	0	0.0%	3	1.9%	6	3.8%	3	1.9%	9	2.9%
	5 わからない	2	2.6%	1	1.3%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.3%	1	0.6%	3	1.0%
5 【B型肝炎の方のみ】 性行為で感染することがあるので配偶者やパートナーが免疫を持っているか検査し、免疫がない場合にはワクチンを接種させる	1 意識している	36	46.2%	33	42.3%	69	44.2%	—	—	—	—	—	—	36	46.2%	33	42.3%	69	44.2%
	2 まあ意識している	13	16.7%	19	24.4%	32	20.5%	—	—	—	—	—	—	13	16.7%	19	24.4%	32	20.5%
	3 あまり意識していない	14	17.9%	11	14.1%	25	16.0%	—	—	—	—	—	—	14	17.9%	11	14.1%	25	16.0%
	4 意識していない	11	14.1%	12	15.4%	23	14.7%	—	—	—	—	—	—	11	14.1%	12	15.4%	23	14.7%
	5 わからない	4	5.1%	3	3.8%	7	4.5%	—	—	—	—	—	—	4	5.1%	3	3.8%	7	4.5%

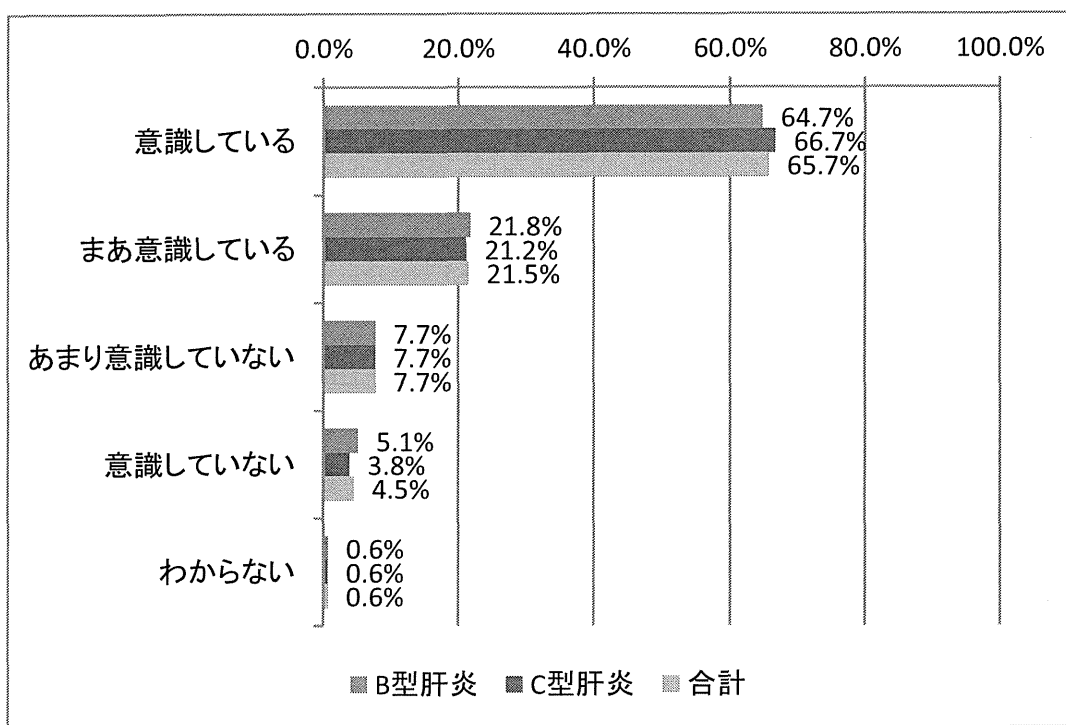


図 10 「肝炎ウイルスは主として血液を介して感染するため、血液が付着する可能性のあるカミソリや歯ブラシなどの共用は避ける」

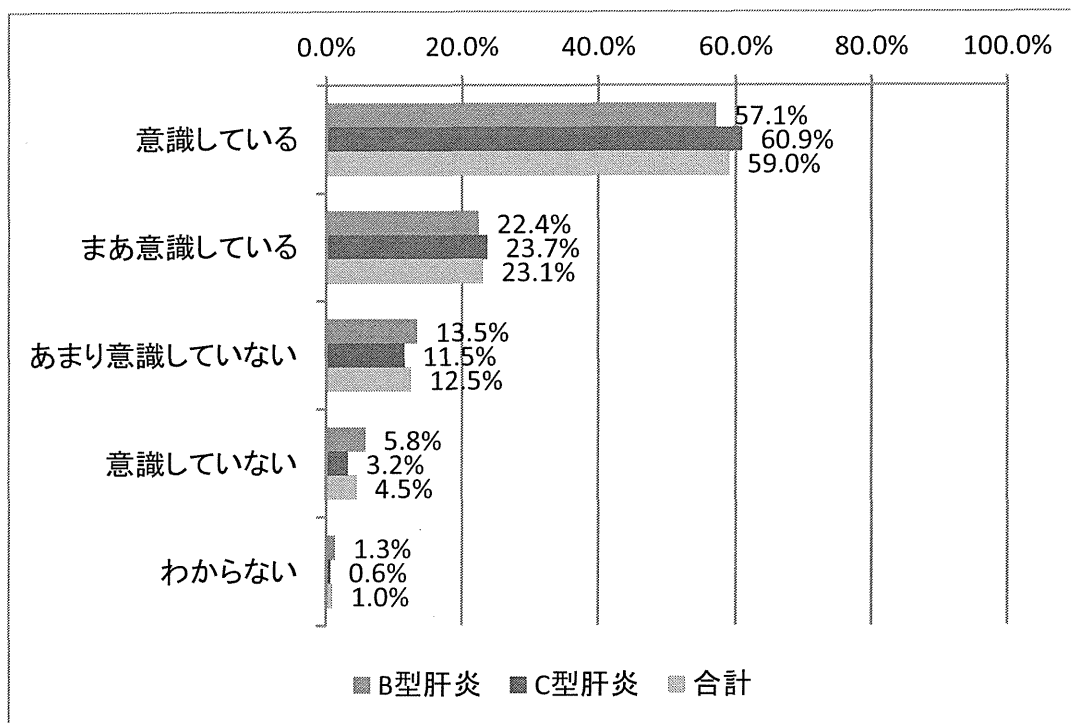


図 11 「肝炎ウイルスは主として血液を介して感染するため、出血した際には他人が触れないように、処理を徹底する」

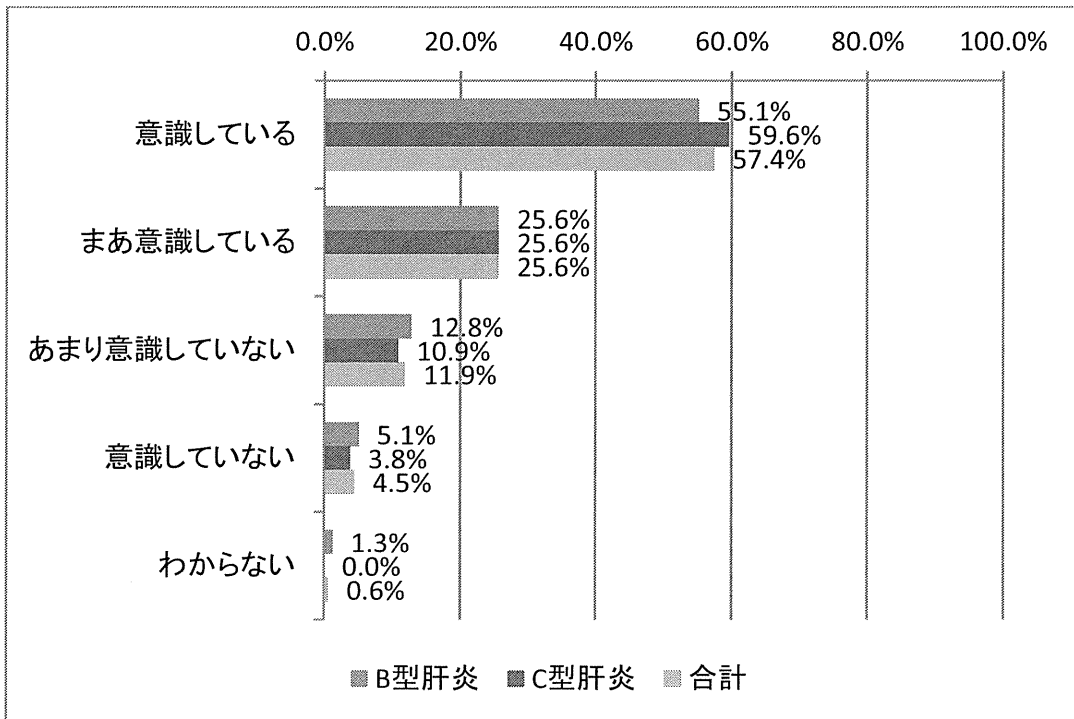


図 12 「外傷、皮膚炎、鼻血などはできるだけ自分で手当てし、手当を受ける場合は血液や分泌物を手当をしている人につけない」

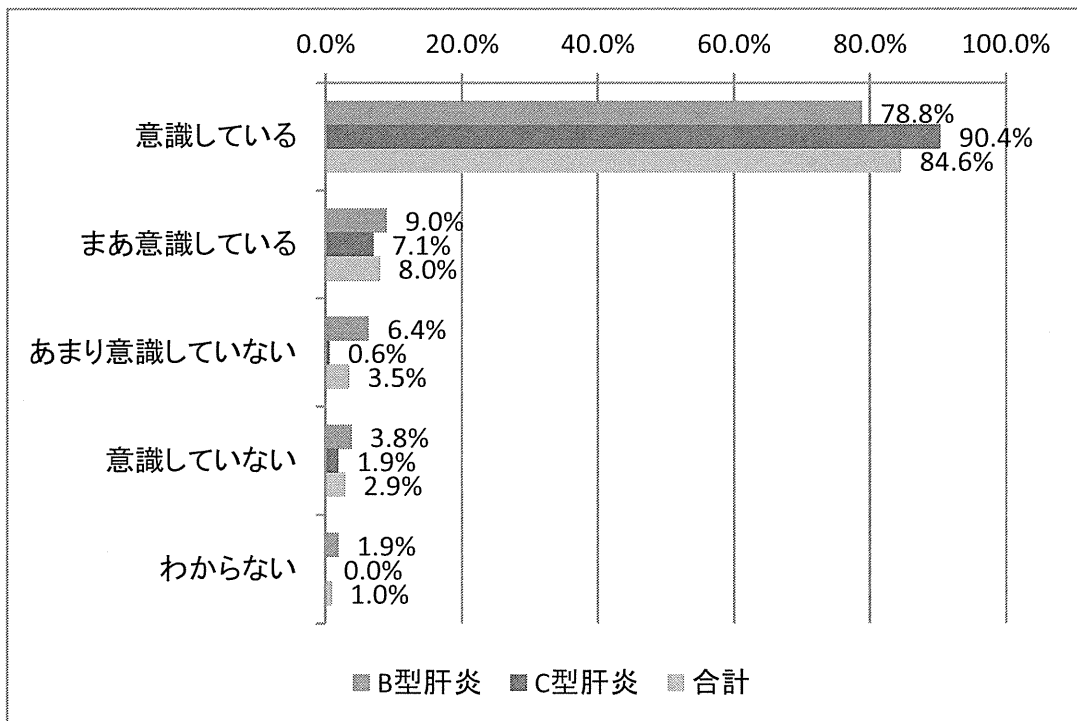


図 13 「献血はしない」

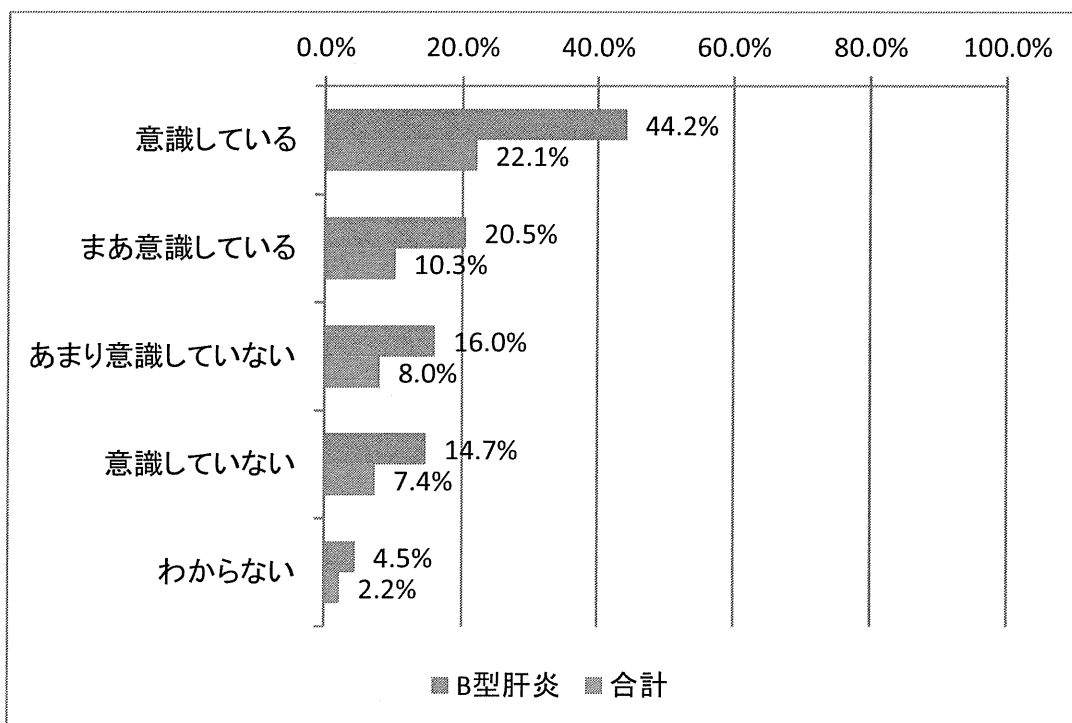


図 14 【B型肝炎の方のみ】

「性行為で感染することがあるので配偶者やパートナーが免疫を持っているか検査し、免疫がない場合にはワクチンを接種させる」

表 4 肝炎ウイルスの感染が明らかとなった理由

選択肢	B型肝炎						C型肝炎						合計					
	男		女		合計		男		女		合計		男		女		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1 会社の健康診断で指摘されたから	16	20.5%	14	17.9%	30	19.2%	19	24.4%	9	11.5%	28	17.9%	35	22.4%	23	14.7%	58	18.6%
2 人間ドックで指摘されたから	4	5.1%	3	3.8%	7	4.5%	6	7.7%	4	5.1%	10	6.4%	10	6.4%	7	4.5%	17	5.4%
3 地域での健康診断で指摘されたから	1	1.3%	3	3.8%	4	2.6%	4	5.1%	7	9.0%	11	7.1%	5	3.2%	10	6.4%	15	4.8%
4 病院で妊婦健診や手術などの際に指摘されたから	3	3.8%	12	15.4%	15	9.6%	13	16.7%	21	26.9%	34	21.8%	16	10.3%	33	21.2%	49	15.7%
5 体調不良で受診した際に指摘されたから	30	38.5%	19	24.4%	49	31.4%	20	25.6%	24	30.8%	44	28.2%	50	32.1%	43	27.6%	93	29.8%
6 献血で指摘されたから	16	20.5%	19	24.4%	35	22.4%	16	20.5%	6	7.7%	22	14.1%	32	20.5%	25	16.0%	57	18.3%
7 過去に輸血や血液製剤の使用で不安になり受診したから	0	0.0%	1	1.3%	1	0.6%	6	7.7%	3	3.8%	9	5.8%	6	3.8%	4	2.6%	10	3.2%
8 その他	10	12.8%	12	15.4%	22	14.1%	5	6.4%	8	10.3%	13	8.3%	15	9.6%	20	12.8%	35	11.2%

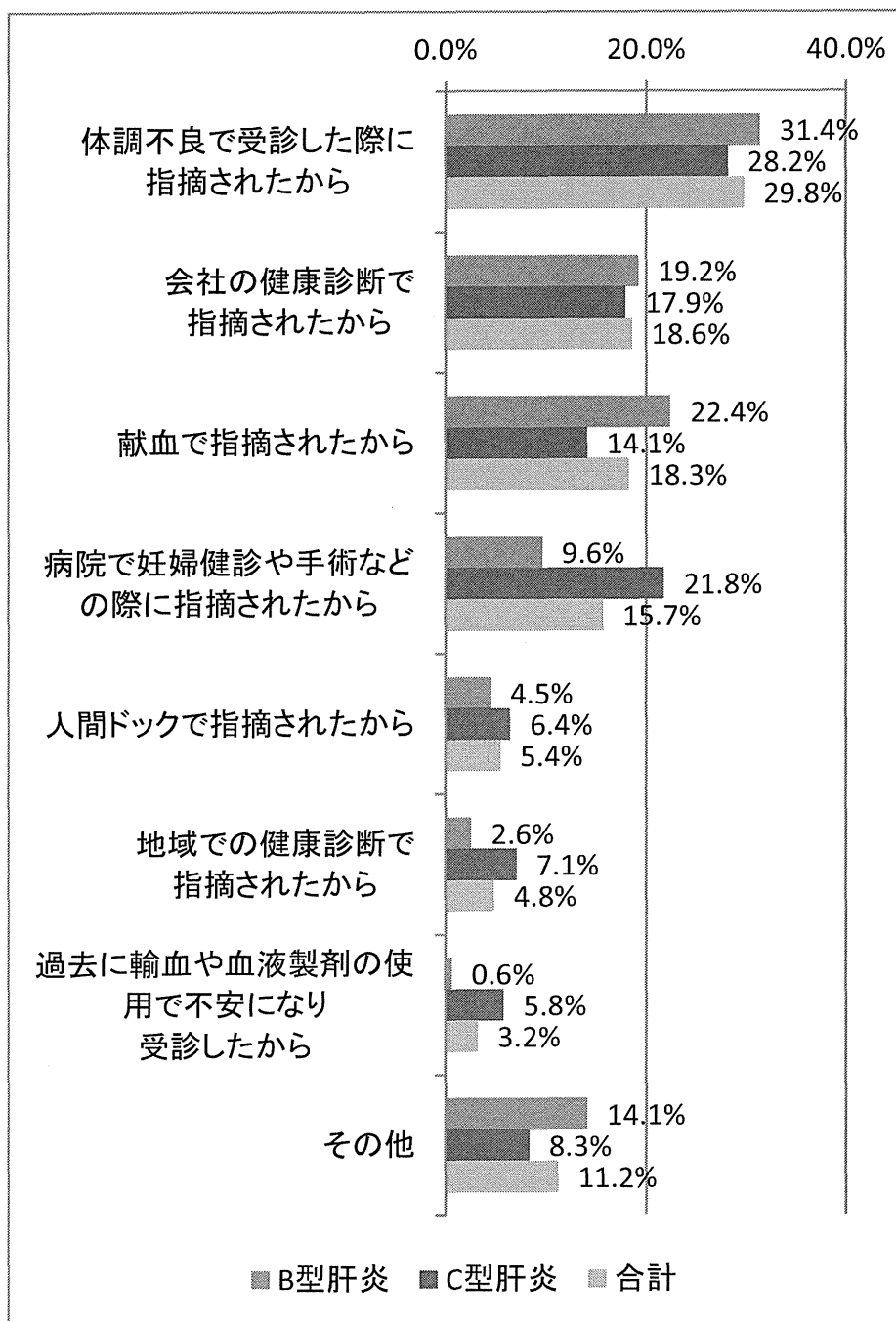


図 15 肝炎ウイルスの感染が明らかとなった理由

表 5 ウイルス性肝炎に関する定期的な受診状況

選択肢	B型肝炎						C型肝炎						合計					
	男		女		合計		男		女		合計		男		女		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1 週に1回以上受診している	1	1.3%	0	0.0%	1	0.6%	4	5.1%	4	5.1%	8	5.1%	5	3.2%	4	2.6%	9	2.9%
2 1か月に1回程度受診している	8	10.3%	5	6.4%	13	8.3%	17	21.8%	9	11.5%	26	16.7%	25	16.0%	14	9.0%	39	12.5%
3 3か月に1回程度受診している	15	19.2%	13	16.7%	28	17.9%	16	20.5%	16	20.5%	32	20.5%	31	19.9%	29	18.6%	60	19.2%
4 半年に1回程度受診している	7	9.0%	10	12.8%	17	10.9%	8	10.3%	9	11.5%	17	10.9%	15	9.6%	19	12.2%	34	10.9%
5 年に1回程度受診している	15	19.2%	14	17.9%	29	18.6%	10	12.8%	16	20.5%	26	16.7%	25	16.0%	30	19.2%	55	17.6%
6 定期的に受診していない	32	41.0%	36	46.2%	68	43.6%	23	29.5%	24	30.8%	47	30.1%	55	35.3%	60	38.5%	115	36.9%

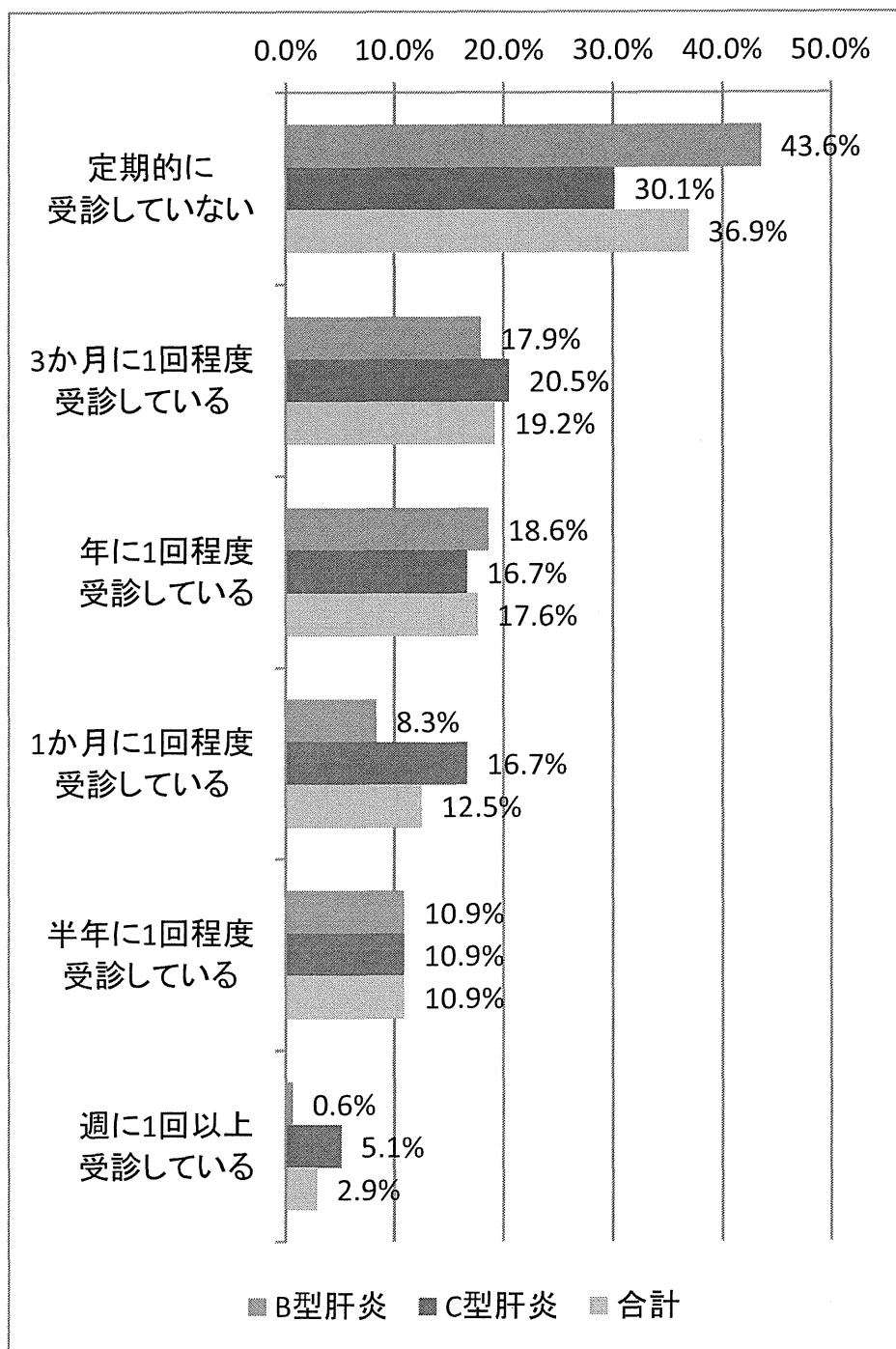


図 16 ウイルス性肝炎に関する定期的な受診状況